

2026年3月期 決算説明会 質疑応答概要  
(2026年5月13日開催)

**Q1. 今回、中期経営計画の最終年度の計画を下方修正しましたが、「VISION 2030」で掲げている経営指標(売上高250億円等)は修正しないのでしょうか。また、達成の見通しを教えてください。**

A.(回答者:二宮)

「VISION 2030」の売上高250億円という目標については、現時点で維持してまいります。この大きな目標に向けた最大の成長ドライバーは、筆頭株主であるアマノ株式会社との取引です。アマノ社との取引額はここ数年で2～3億円から20億円と約10倍に急拡大しており、今後も「AI開発」「サポート業務受託」といった注力領域を中心に、さらなる上積みが可能であると確信しております。市場環境は混迷していますが、アマノ社との強固な連携を軸に、目標達成に向けた施策を確実に実行してまいります。

**Q2. 業績目標を下方修正する一方で、10期連続増配などの積極的な株主還元を行う狙いと、今後の還元方針について教えてください。**

A.(回答者:鳥屋)

今回の修正は事業の停滞ではなく、生成AIの台頭による急激な市場変化を受けた投資規律の厳格化によるものです。当初計画していた労働集約型のM&A案件をリスク回避の観点から一部白紙としたことで、キャッシュをより直接的な還元へ回す判断をいたしました。なお現行の中期経営計画における3カ年のキャッシュアロケーションにおける株主還元率は、当初計画の16億円から17億円に引き上げて実施しております。今後につきましても、ストックビジネスの成長によって生み出される安定したキャッシュフローをベースに、配当性向の引き上げや下限設定のアップデートも視野に入れ、高水準な還元を継続してまいります方針です。

**Q3. アマノ社向けの売上が直近で横ばいとなっていますが、今後の成長ポテンシャルについて教えてください。また、全体に占めるアマノ社向け売上の比率はどう変化しますか。**

A.(回答者:鳥屋)

今期が横ばいとなった主な背景は、受託開発における大型案件の継続中止があったためですが、数年スパンで見れば飛躍的な成長を遂げております。今後は単なる受託開発にとどまらず、アマノ社の製品であるTimeProシリーズへのAI機能実装や、子会社でありサポートサービス事業の中核である株式会社ブライエを通じたアマノ社のサポート業務(勤怠管理・パーキング事業等)のアウトソーシング受託など、多角的な連携が具体化していく予定です。これらの施策により、アマノ社向けビジネスは再び加速する計画であり、当社全体の業績を牽引する重要な柱として成長させてまいります。

以上